

はじめに

2007年10月末より、これまでの麻酔医の体制（月曜日：済生会熊本病院麻酔科応援、水曜日：非常勤麻酔医）から一変し、荒川が当院の麻酔を担当することとなった。2007年は整形外科の常勤医が入職されたため、手術件数も飛躍的に伸び、2006年269件→2007年374件→2008年424件と2年間で50%以上の件数増加となった。また、麻酔科が常勤となることにより、病棟⇔手術室の連絡体制や運営、術前・術後管理にも関わることとなった。現在のところ、周術期における患者管理も安全に行われており、以前より質の高い医療を提供できていると思われる。

しかし、2008年度より内科医が減少し、病棟や救急外来業務の負担が増加した。加えて脳神経外科の手術開始という新たな一步を目前に控え、現行の体制からスムーズな調整が行えるかが、今後の手術室スタッフの課題である。

①2008年度総括

麻酔件数は2007年度と比較し、374件（全麻：157、腰麻：142、局麻：75）
⇒424件（全麻：193、腰麻：163、局麻：56、その他12）と著増した。

これは、整形外科手術の増加によるもので、麻酔側の要素によるものではない。しかしながら、現スタッフの体制（麻酔医1名《内科兼務》、手術室看護師5名《外来業務兼務》、看護助手1名）でこの増加に対応できたことは、評価に値するものであると考えている。

麻酔別手術件数比較

	2006	2007	2008
全身麻酔	112	157	193
腰椎麻酔	113	142	163
局所麻酔	44	75	56

科別手術件数比較

	2006	2007	2008
外 科	168	144	147
泌尿器科	95	75	74
循環器科	6	11	7
整形外科	1	145	197

②問題点と今後の課題・目標

一番の問題は、医師数の減少による、手術体制のマンパワー不足である。昨年度は緊急手術の際に私が救急外来担当でも、交代要員を補充できた。しかしながら、内科医師の2名の減少により、救急外来担当時の緊急手術について、昨年のようにスムーズな対応は困難になると思われる。

看護師についても同様。看護師数はそのまま、手術件数の増加に対応しており、手術が続いた際には、救急外来兼務であるため対応できる看護師が不足し、結果、病棟に応援を依頼していたのが現状である。これからの手術件数の動向は不明であるが、増員の必要性はかなり高いと思われる。

今後の課題・目標は、まずは脳神経外科手術の速やかな運営である。2009年度より脳神経外科医師2名が常勤となり、これまで当院では行っていなかった手術が開始される。皆で協力しながら、安全な手術を患者に提供できるよう、更なる努力が必要である。

また、超音波ガイド下神経ブロックなどの技術講習へ参加し、神経ブロックによる低侵襲な手術・麻酔を当院でも行えるよう、更なる努力をしていく。また、現在の周術期麻酔のみで無く、ペインクリニックなどの麻酔関連領域の知識・技術の習得を考慮している。ターミナルケア領域でも貢献できればと考える。